

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 常陸太田市

自治体名：茨城県常陸太田市

担当課名：常陸太田市教育委員会 生涯学習課

電話番号：0294-72-8888

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	372 km ²
人口	44,602人
公立中学校数	7校
公立中学校生徒数	799人
部活動数	47部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

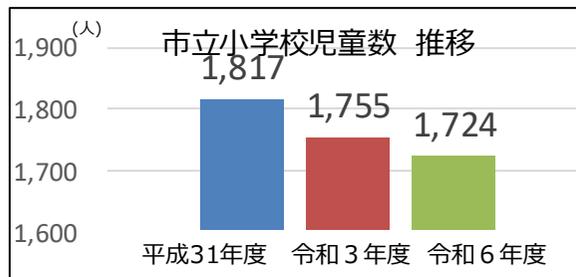
現在、当市の運動部活動は、軟式野球部、サッカー部、男子ソフトテニス部、女子ソフトテニス部、男子バスケットボール部、女子バスケットボール部、男子バレーボール部、女子バレーボール部、卓球部、剣道部、弓道部、多目的運動部、陸上部の13種目が活動している。

少子化に伴い、団体種目においては、合同チームによる活動や拠点校による部活動を行っている。

昨今の児童・生徒数を見ると団体スポーツの将来的な存続は難しいものと考えている。部活動改革の第一歩として、休日の部活動の段階的な地域展開をしていく必要がある。

【課題】

現在の常陸太田市の児童・生徒数を鑑みると、今後減少傾向はますます大きくなることが想定される。

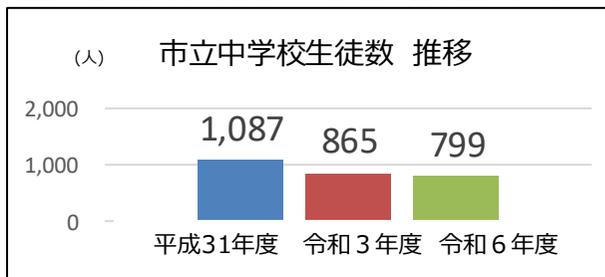


※常陸太田市教育委員会

このような諸課題の解決を図るため、令和5年度以降、3年間程度を改革推進期間とし、地域の持続可能な受け入れ環境を一体的に整備するとともに、休日等の部活動の地域移行を積極的に推進することで、生徒たちの多様な体験機会を確保できるよう推進する。

令和5年4月より「地域野球クラブ」、令和6年3月より「地域バレーボールクラブ」、同年11月より「地域サッカークラブ」が活動を開始した。まず、地域クラブ活動への参加については、「任意参加」の方針を取っており、生徒主体のクラブ活動運営に努める。

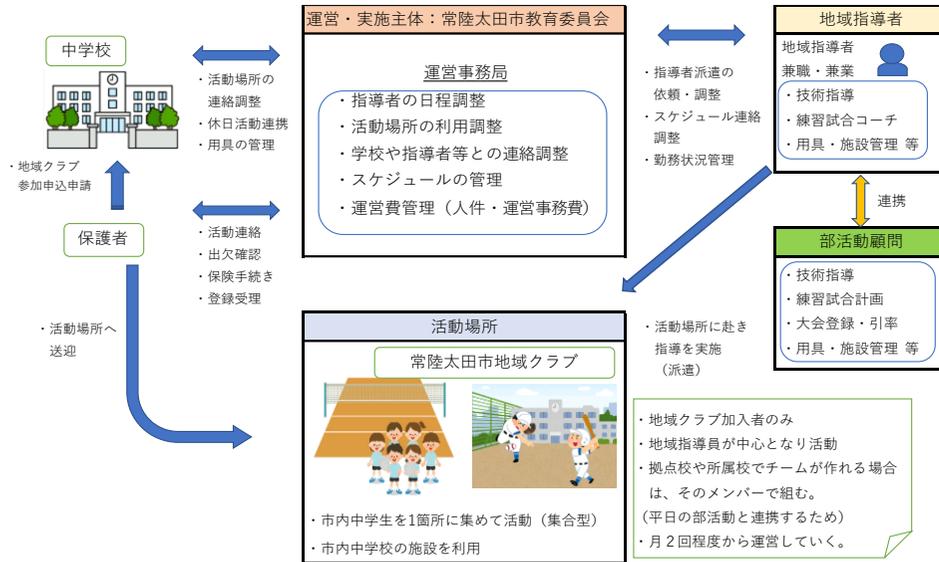
また、将来的にも児童・生徒数の減少が見込まれることから、活動が困難になると推測される団体競技を優先しつつ、受け皿となる環境を整え地域クラブ活動への移行を推進していく。



※常陸太田市教育委員会

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



※常陸太田市教育委員会

●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- 常陸太田市地域クラブ活動推進委員会 事務局（生涯学習課）
- 常陸太田市における地域クラブ活動の運営全般に関すること

◎教育委員会内の役割分担

- 下記のスポーツ団体との連絡調整（窓口）
- 常陸太田市スポーツ少年団
- 常陸太田市スポーツ協会

年間の事業スケジュール

- 令和6年4月 地域クラブ活動加入案内配付
加入手続き
（軟式野球、バレーボール）
- 令和6年5月 新1年生地域クラブ加入
（軟式野球、バレーボール）
- 令和6年7月 各団体ヒヤリング
（サッカー、バスケットボール）
- 令和6年9月 第1回検討委員会
- 令和6年10月 生徒・保護者への説明会実施
（サッカー、バスケットボール）
- 令和6年11月 地域サッカークラブ活動開始
- 令和7年1月 地域クラブ活動 新入生説明会
地域クラブ活動実態調査
- 令和7年2月 第2回検討委員会
- 令和7年3月 事業完了報告書・成果報告書等の作成

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	7校	実施した地域クラブ総数	3クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3クラブ（4部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1クラブ
全体の指導員数	24人	全体の運営スタッフ数	2人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導員数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
常陸太田市地域野球クラブ	行政主導型	軟式野球	月2回程度	8:00～11:00	1年:9名 2年:8名 3年:14名	4月～3月	市内中学校(校庭)	5人	2人 (内、兼務2人)	年会費800円(保険料)	中体連：部活動 その他：部活動
常陸太田市地域バレーボールクラブ	行政主導型	バレーボール	月2回程度	8:00～11:00	1年:10名 2年:17名 3年:8名	4月～3月	市内中学校(体育館)	9人	2人 (内、兼務2人)	年会費800円(保険料)	中体連：部活動 その他：部活動
常陸太田市地域サッカークラブ	行政主導型	サッカー(新)	月2回程度	8:00～11:00	1年:3名 2年:10名	11月～3月	市内中学校(校庭)	6人	2人 (内、兼務2人)	年会費800円(保険料)	中体連：部活動 その他：部活動
常陸太田市地域総合クラブ	行政主導型	体幹トレーニング等	月1回程度	8:00～9:00	各クラブ所属生徒対象	4月～3月	市内中学校(校庭・体育館)	4人	2人 (内、兼務2人)	無 (他のクラブと兼ねる)	無

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 令和6年10月19日 地域サッカークラブ体験説明会、地域バスケットボールクラブ体験説明会 実施
- 総合クラブは、他の各クラブ活動と連携し、ケアや怪我をしにくい体幹トレーニングを行っている。

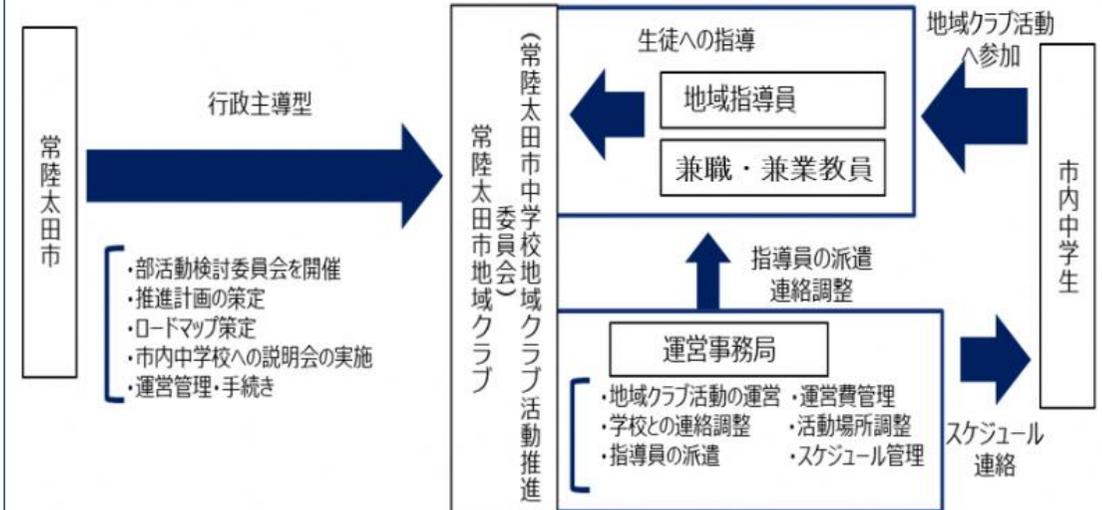
2.実証内容と成果

主な取組例

●常陸太田市地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	野球、バレーボール、サッカー
運営団体名	常陸太田市地域クラブ活動推進委員会
期間と日数	野 球 : 4月13日 ~ 3月15日 月2回程度 バレーボール: 4月6日 ~ 3月16日 月2回程度 サッカ- :11月24日 ~ 3月16日 月2回程度
指導員の主な属性	市人材バンク登録者
活動場所	市内中学校 (校庭・体育館)
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費等 (年額)	野 球 : 0円 バレーボール: 0円 サッカー : 0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり: 800円/年 指導員1人あたり: 1,850円/年

●運営体制図 (地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



※常陸太田市教育委員会

●指導員や運営スタッフなどの役割分担等

●運営事務局

役割: 指導員派遣、運営管理・事務、学校との連絡調整、活動場所の調整、スケジュール管理を行う

●地域クラブ指導員 24名 (内: 兼職・兼業教員 4名)

役割: 生徒への技能・技術指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

- イ：指導員の質の保障・量の確保
- ウ：関係団体・分野との連携強化
- エ：面的・広域的な取組

- オ：内容の充実
- カ：参加費用負担の支援等
- キ：学校施設の活用等
- ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

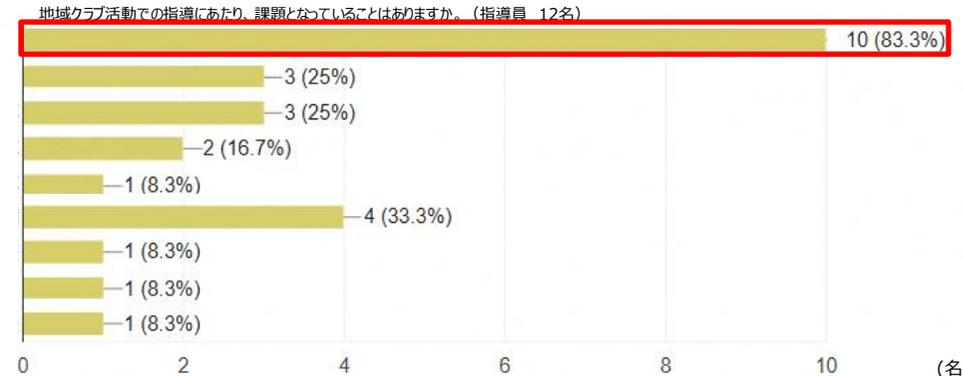
取組事項

- 行政主導での地域クラブ設立及び運営。
- コーディネーターを1名配置し、関係団体・市区町村・学校・保護者との連絡調整・指導助言等を行う。
- 運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。
- 参加者の管理、保険料徴収、参加者・指導員への連絡、会場確保・調整、学校連携。

取組の成果

コーディネーターを運営団体に配置したことにより、事務局が連絡調整の起点となり、家庭・指導員・学校への連絡調整を円滑に行うことができた。指導員の派遣や練習場の確保、練習計画を事務局が行うことにより、地域クラブ指導委員への負担を軽減することができた。今年度開始した地域サッカークラブにおいては、市内クラブチーム団体のコーチに技術指導を依頼することにより、運営体制の幅が広がった。また、事務局が、練習場に立ち会うことにより、地域指導員との打合せを日々設けることができた。地域クラブ指導員を対象としたアンケートを行い12名の回答があった。回答者の83%が平日の部活動との指導方針の連携が必要と感じている結果となった。

- (1) 平日の学校部活動との指導方針の連携
- (2) 地域クラブの大会参加
- (3) 事故発生時の対応
- (4) 生徒の対応
- (5) 保護者への対応
- (6) 活動場所の整備
- (7) 自チームとの調整
- (8) 活動日時、回数の確保
- (9) 技術の差



※常陸太田市教育委員会

コーディネーターの具体的な動きの実績

【コーディネーター】

- ・各クラブの練習を巡回し課題等のヒアリング・助言等を実施
- ・指導員との連絡調整及び助言
- ・学校との連絡調整

今後の課題と対応方針

- 調査の結果、兼職兼業者を含め指導員の75%が学校と地域との指導連携が難しいと考えている。平日の部活動と休日の地域クラブ活動との連携の強化をさらに図っていく。地域指導委員と学校部活動との連携がとれるように場の設定の検討を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導員の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導員の質の保障・量の確保①

取組事項

○事務局が現地に立ち合い、指導者と連携をとりながら活動を行う。
 ○指導員を対象とした地域クラブの安全確保や連携体制の確認、また、コンプライアンス等の研修を行う。

人材バンクの人数

22名

人材バンクの年齢構成

20代	4名
30代	4名
40代	5名
50代	5名
60代以上	4名

登録者属性

職業
 ・会社員 22名
 人材バンク登録理由
 市スポーツ少年団、市スポーツ協会を通じて紹介
 ・男 19名、女 3名

種目

・軟式野球
 ・バレーボール
 ・サッカー
 ・バスケットボール
 ・ストレッチ・トレーニング指導

資格有無

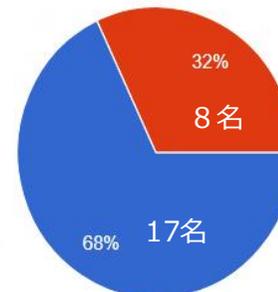
・サッカー
 日本サッカー協会公認
 A級U12 1名
 B級コーチ 1名
 C級 3名
 ・バスケットボール
 JBA Cコーチ 1名
 C指導員 1名

取組の成果

参加した中学生を対象としたアンケートの結果、25名の回答があった。回答者の100%が「楽しい」「やや楽しい」と肯定的な意見が見られた。また、その理由としては、自身の技術向上が72%、専門的な指導が受けられるが40%となった。スポーツに通じている地域の方々により、専門性のある指導員による質の高い技術指導が生徒に提供できているとわかる。

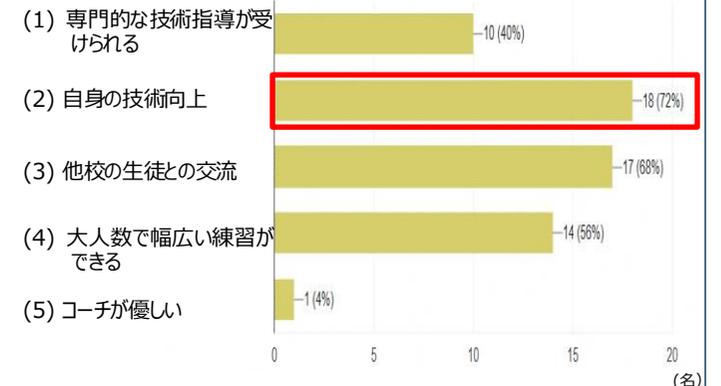
また、本市地域クラブ活動が、勝利至上主義にならない中学校部活動の運営方針を引き継ぎ、生徒達にとって有意義で楽しい活動となっていることがわかる。

1. 休日の地域クラブ活動は楽しいですか。(生徒 25名)



- (1) 楽しい
- (2) やや楽しい
- (3) あまり楽しくない
- (4) 楽しくない

2. 「楽しい」「やや楽しい」と答えた理由を教えてください。(複数回答可)(生徒 25名)



※常陸太田市教育委員会

※常陸太田市教育委員会

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導員の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 イ：指導員の質の保障・量の確保② / ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項（イ）

指導員研修の内容

- ・各地域クラブ活動ごとの研修（目的・意図・運営方針の確認）
- ・指導方針 ・コンプライアンス研修 ・指導する際の留意点
- ・事故への対応、リスクマネジメント対策

取組の成果（イ）

- ・各クラブ活動時に、研修・打合せを行い地域クラブについて共通理解をすることができた。また、事務局が、地域クラブ活動に同行することにより、その都度、取組み方について検討することができた。

指導員の声

- ・地域クラブ活動の目的や意図について確認ができた。
- ・学校の先生でない立場での指導員としてスポーツを通じて様々な事を伝えられる役割だと思います。私達が今まで学び感じた経験や体験を第三者の立場で共有していきたいと思う。

今後の課題と対応方針

- ・今年度は、地域クラブ活動についての説明のための研修となった。指導員の資質向上のために、今後、どの水準まで質を求めるかについては、検討する必要がある。事務局が主催する全体の研修会を図る。

取組事項（ウ）

- 市内中学校、市スポーツ協会、競技団体、市PTA連合会、市スポーツ少年団、市文化団体連合会等と連携し、指導員の確保及び新たな地域移行する部活動の検討

取組の成果（ウ）

- 市内中学校を訪問し、学校の協力を求めることで、市内中学校の全ての生徒に募集チラシの配布を行うだけでなく、PTA総会や新入生説明会で活動の周知をする機会を得た。
- 令和6年度、地域サッカークラブを開設する際は、市スポーツ協会から、市内のクラブチーム指導員を推薦していただき、指導員の確保を行った。
- 各運営主体が活動するときは、指導員が競技種目の指導のみに集中できるように、会場の施錠、開場や参加者の出欠確認などを行う運営員を配置し、その運営員を事務局が担うことで、地域一体となって運動部活動の地域移行に向けた環境づくりを進めた。

- ・今後、新たに地域移行を進めるためには、学校・家庭・地域の理解を得ることが重要となる。連携して取り組むためにも、様々な方法で説明を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導員の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

○団体競技において、生徒数の減少により、中学校単位では部活動を行うことが困難なため、市内一カ所に生徒を集め活動した。
○軟式野球部、バレーボール部に拠点校を1校ずつ配置したことを受け、地域クラブ活動でも、そこを拠点とする取組を実施した。
○中学校総合体育大会後も、3年生ができるように実施した。

自治体の役割

- ・地域クラブ運営、予算管理
- ・関係機関との連絡、調整
- ・理解促進に向けての広報
- ・諸謝金等の事務処理

移動手段

- ・保護者による送迎
- ・学区内は徒歩又は自転車

市内拠点校（部活動）

- ・軟式野球部 1校
- ・男子バレーボール部 1校
- ・女子バレーボール部 1校
- ・弓道部 1校

地域クラブ登録者数

- 他中学校の拠点校へ入部後、地域クラブへ登録者数
- ・地域野球クラブ 1名
 - ・地域バレーボールクラブ 4名

取組の成果

○地域クラブ活動に参加した生徒は、79名であったが、そのうち5名の生徒が拠点校登録の参加であり、地域クラブ活動への参加を希望し活動した。
○拠点校登録者を受け入れ活動する取組を2種目の地域クラブ活動で実施することができた。
○全国中学校体育大会後も、野球クラブで3名、バレーボールクラブで4名の3年生が活動を行った。

今後の課題と対応方針

○団体種目の部活動から、地域クラブへ移行するため、市の実態や生徒実態を調査しながら地域展開を検討する。
○平日の部活動との連携が課題。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導員の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

- 行政主導型による地域クラブ活動を実施し、個人技能向上を基本とする活動を行なった。
- 現在、運動部に所属していない生徒も含めた、スポーツをやりたい子どもの新たな活動場所となるように機会を設定した。
- 「地域クラブに関する調査」を実施し、生徒・保護者・指導員のニーズの把握に努めた。
- 整体治療院と連携し、各地域クラブ活動の際に、体のケアの仕方(ストレッチ)、ケガのしにくい体づくりやトレーニングを実施した。

活動の詳細

参加人数	79 人	指導員数	24 人
属性	常陸太田市地域クラブ（軟式野球、バレーボール、サッカー）		
具体的な内容	活動日時：月 2 回程度 土・日曜日・祝日 ※土・日曜日・祝日のどちらか 1 日 活動時間：＜夏季期間以外＞ 8：00 ～ 11：00 ＜夏季期間＞ 7：00～10：00 活動場所：市内中学校 校庭、体育館		
令和 6 年度 実施回数	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域野球クラブ 18回 ● 地域バレーボールクラブ 23回 ● 地域サッカークラブ 7回 ● 地域総合クラブ 6回 		
生徒の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 他校の生徒と交流ができて楽しい。 ● コーチが優しく指導してくれる。 ● 地域の方が、技術指導をしてくれて分かりやすい。自身の技術が向上している。 ● 地域クラブでは、試合形式のゲームができて楽しい。 		
指導員の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域に根差したクラブチーム運営を様々な形で実現する為、尽力したい。 ● 学校の先生でない立場での指導員としてスポーツを通じて様々な事を伝えたい。 ● 持っている技術を伝え続けていきたい。 ● 自分が子供の頃から親しんだスポーツの魅力を伝えたい。 		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導員の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

参加した中学生を対象としたアンケートの結果、25名の回答があった。回答者の56%が「大人数で幅広い練習ができる」、68%が「他校との交流」とあげている。市内の中学生を一カ所に集めることで、大人数での活動ができるようになり、より幅広い練習ができることは、生徒にとって、よりスポーツを親しむためのよい環境となっている。

指導員を複数派遣することで、個別に応じた指導も可能となり、生徒たちの技術向上へつながっている。

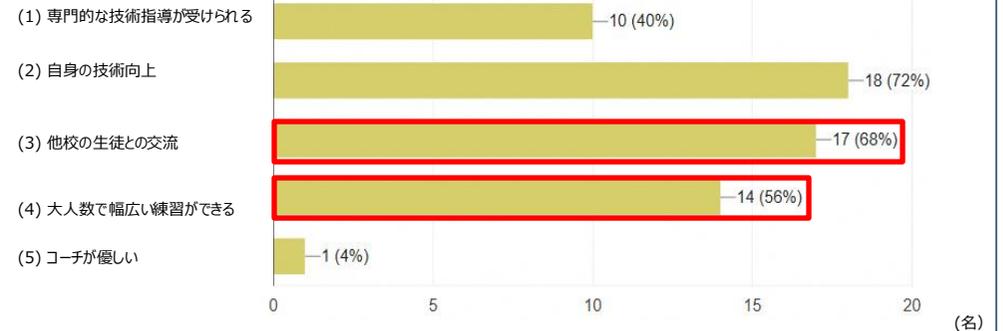
今後の課題と対応方針

参加した中学生を対象としたアンケートの結果、25名の回答があった。地域クラブに期待することとして回答の56%が「体力・運動能力向上」、「技術・戦術的な指導」を求めている。また、40%が「楽しいんで活動に参加できる」と答えている。

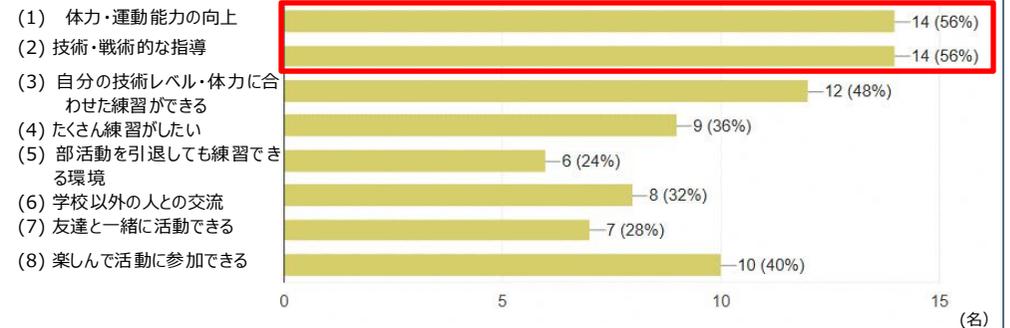
保護者を対象としたアンケートの結果、39名の回答があった。回答者の71.1%が「子どもの技術・体力向上」、55.3%が「専門的な技術指導が受けられる」と答えている。

この結果を受け、今後の地域クラブ活動では、勝利至上主義ではなく、スポーツに親しむ場として運営し、生徒たちの資質・能力を高める質の高い技術指導を提供し、学びと育ちの両面から生徒たちの健全育成を図っていく。

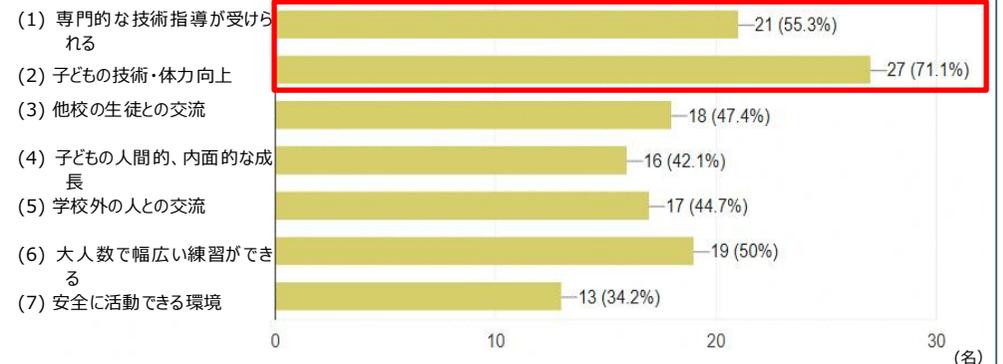
「楽しい」、「やや楽しい」と答えた理由を教えてください。（複数回答可）（生徒 25名）



休日のクラブ活動にどのようなことを期待しますか。（生徒 25名）



今後、常陸太田市で実施する地域クラブ活動に期待することはありますか。（保護者 39名）



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導員の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担に対する取組 / キ：学校施設の活用等

取組事項

- 令和6年度は、部活動地域移行期ということもあり受益者負担額は、保険料の800円のみで実施。
- 費用負担の在り方に対する取り組みとして、地域スポーツクラブ活動に対する収支を踏まえた会費の適切な設定・徴収方法・保護者負担経費について検討を行った。

地域クラブに係る経費

■ランニングコストの分析

- ・指導員謝金（776千円）・事務局人件費（1,496千円）
- ・消耗品費（795千円）・雑役務費（1千円）・保険料（115千円）

取組の成果

移行期間中である令和6年度までは、受益者負担は、保険料800円のみとした。保険料のみということで、部活動の延長上として参加する生徒が多くみられた。地域クラブの持続可能な仕組みづくりのために、今年度の費用を参考に、受益者負担経費についてさらに検討していく。

今後の課題と対応方針

- 地域クラブの運営にあたっては、持続可能な仕組みづくりを行なっていく必要があることから、実証事業における収支構造の可視化を行い、適切な受益者負担額の設定について検証を行う。
- 参加者に負担を求める場合について、一定の人数の参加がなければ賄えないことになり、持続可能性に視点を置いた検証を令和7年度に行う。

取組事項

- 地域クラブは現在3種目が活動しており、市内中学校を練習拠点し、活動をしている。
- 練習拠点となる中学校へは、練習場所となる校庭や体育館の連絡・調整を行った。

取組の成果

市内中学校の施設・設備を活用することができ、効率的に練習を行うことができた。

令和5年度 2校設置 ⇒ 令和6年度 5校設置

練習拠点となる市内中学校にキーボックスを取付け、休日の鍵の受け渡しができるようにした。これにより、施設の鍵の受け渡しがスムーズになった。
・ボール等を地域クラブ活動でそろえることにより、生徒に十分な活動の場を設定することができた。
・地域クラブ担当者と部活動顧問で連絡を取り合い、練習場となる校庭や体育館の調整を行った。

今後の課題と対応方針

- 活動場所について、学校部活動や種目により大会との調整が必要であるため、計画を立て行う必要がある。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

地域移行の取り組みとして、各中学校から希望を募り、令和5年4月より、地域野球クラブを開設、令和6年3月より、地域バレーボールクラブ、同年11月より、地域サッカークラブを開設した。3つのクラブに79名の生徒が登録している。指導員は、少年団などで指導経験のある地域指導者20名と兼職・兼業4名、計24名である。クラブ活動は、月2回程度休日を基本に指導員を各練習会場へ派遣し、活動を行った。

生徒へのスポーツを親しむ場の提供ができ、指導員より、生徒の技術向上が図れた。また、市内の生徒を一カ所に集めて活動することによって大人数によるゲームを踏まえた活動も行うことができた。地域クラブ活動としては、参加者の満足度は高く、生徒と指導員との関係も良好である。しかし、チーム練習の面では、平日の部活動との連携が必要となり、課題がみられた。来年度、指導員と学校部活動との連携がとれるように場の設定を行っていく。

●成果の評価

- 地域移行の取り組みは、生徒数の減少により、チーム編成が困難となる、野球、バレーボール、サッカーを優先して取り組んだことにより、団体種目の活動をする場を提供することができた。
- 指導員により、専門的な技術指導を行ってもらうことにより、生徒自身も技術の向上を感じている。
- 他校との関わりが増え、生徒にとって交流を深めるよい機会となっている。
- 市内中学校の施設を活動場所として設けることにより、部活動の設備を活用することができ、効率的に練習を行うことができた。また、地域クラブ活動の充実のため用具を補充することができた。
- 部活動の地域移行として、地域クラブ活動の際は、部活動が休みとなるので、教員が関わる部活動実施回数を減少させることができた。

●今後に向けて

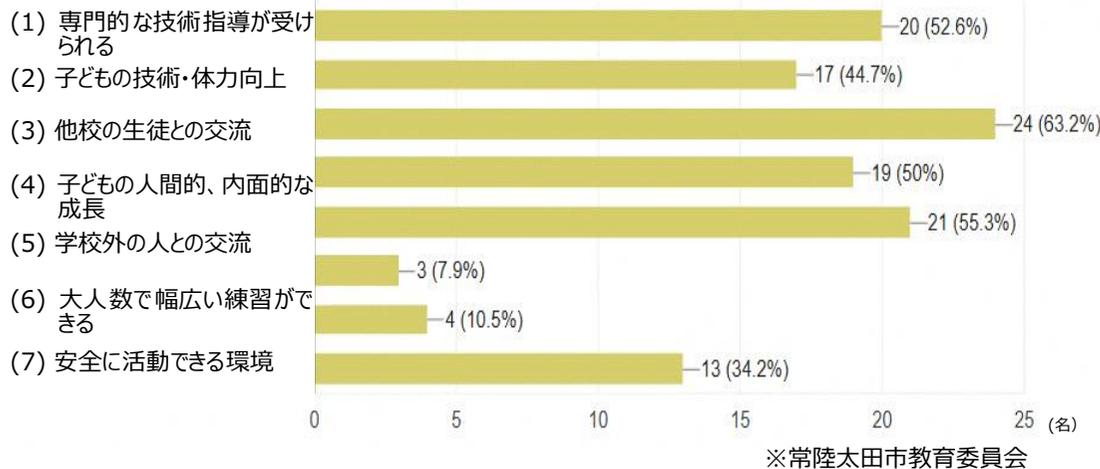
市内の生徒の実態について調査を行い、今後の地域クラブへ移行する競技を検討していく。また、令和7年度より、持続可能な地域クラブ運営とするために、会費負担を開始する。保護者の理解を得るために、会費負担の必要性について説明していくとともに、地域クラブ活動について理解を深めてもらう機会を設ける。

2.実証内容と成果②

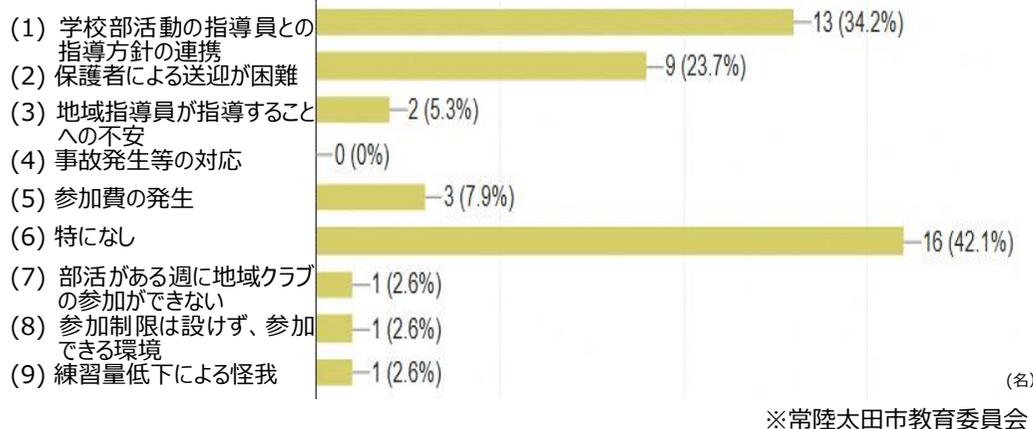
アンケート結果・広報物の抜粋

●アンケート結果 保護者（38名）

Q.お子さんに休日の地域クラブ活動へ参加させる上で、重視すること何ですか。



Q地域クラブ活動に参加するにあたって課題と感じていることはありますか。



【生徒への参加啓発チラシ】



令和6年度常陸太田市地域クラブ活動

常陸太田市地域クラブ活動とは？
常陸太田市中学校地域クラブ活動推進委員会が運営するクラブ活動のことで、参加を希望する常陸太田市の中学校に在籍する生徒を受け入れて、休日に地域クラブ活動を実施します。

地域野球クラブ	地域バレーボールクラブ
活動場所：世夫中学校 グラウンド 金砂郷中学校 グラウンド 峰山中学校 グラウンド 活動日時：月2回程度 土曜日、日曜日、祝日 ※原則、土日のどちらか1日 活動時間：＜夏季期間＞7:00～10:00 ＜夏季以外＞8:00～11:00 活動費用：保険料 800円/年間 ※活動場所・時間は変更になる場合があります。	活動場所：金砂郷中学校 体育館 瑞電中学校 体育館 活動日時：月2回程度 土曜日、日曜日、祝日 ※原則、土日のどちらか1日 活動時間：＜夏季期間＞7:00～10:00 ＜夏季以外＞8:00～11:00 活動費用：保険料 800円/年間 ※活動場所・時間は変更になる場合があります。
地域サッカークラブ	地域バスケットボールクラブ(女子)
活動場所：太田中学校 グラウンド 瑞電中学校 グラウンド 活動日時：月2回程度 土曜日、日曜日、祝日 ※原則、土日のどちらか1日 活動時間：＜夏季期間＞7:00～10:00 ＜夏季以外＞8:00～11:00 活動費用：保険料 800円/年間 ※活動場所・時間は変更になる場合があります。	活動場所：太田中学校 体育館 峰山中学校 体育館 活動日時：月2回程度 土曜日、日曜日、祝日 ※原則、土日のどちらか1日 活動時間：＜夏季期間＞7:00～10:00 ＜夏季以外＞8:00～11:00 活動費用：保険料 800円/年間 ※活動場所・時間は変更になる場合があります。

常陸太田市中学校地域クラブ活動推進委員会（事務局：常陸太田市教育委員会生涯学習課）
TEL. 0294-72-8888

※常陸太田市教育委員会

地域クラブに所属する生徒の保護者は専門的な指導のもと、子供の技術向上を期待している。また、他校の生徒との交流も63.2%と高いことから、複数校から集め地域クラブを実施していることに肯定的である。課題としては、34.2%と平日の部活動との連携があげられる。また、送迎について23.7%が困難としていることから来年度の活動時間等については検討していく。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【地域野球クラブ】



【地域バレーボールクラブ】



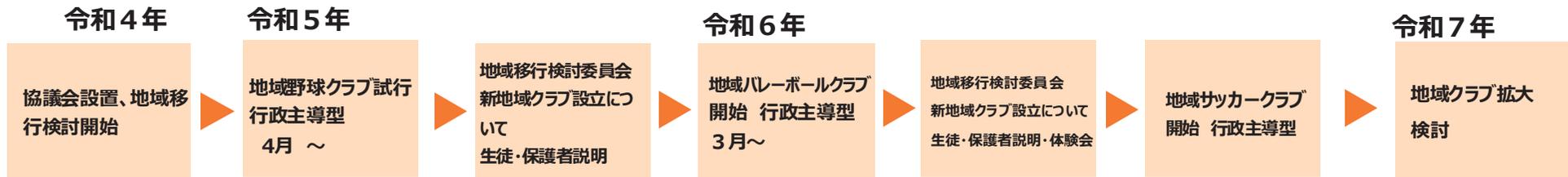
【地域サッカークラブ】



【地域総合クラブ（野球）】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

市教育委員会（常陸太田市地域クラブ活動推進委員会）、コーディネーター、学校、スポーツ協会、スポーツ団体

経過

令和4年度より検討委員会を設置し、常陸太田市地域クラブ活動推進委員会を運営団体として、行政主導型の地域クラブ活動としての活動指針を策定した。令和5年4月より団体種目の地域野球クラブをモデルクラブとして試行し、その検討を基に翌年3月から地域バレーボールを開始した。令和6年度は、地域サッカークラブを開始。運営事務局とコーディネーター、学校、指導員等で連携をとり、活動環境整備及び運営に取り組んでいる。

実施内容

令和6年度からは、市地域クラブ活動を月2回程度の休日に行うとする試験的な取組を開始した。地域クラブ活動は全3クラブが実施された。市内中学校の生徒が参加する形態であり、その競技とは異なる部活動に入部している生徒も参加可能である。また、スポーツトレーナーと連携し、ケアや怪我をしにくい体幹トレーニングも行っている。

実施にあたって生じた課題

市の現状として、生徒数の減少が影響している。地域クラブ活動を開始しても、種目により参加する生徒が少ない場合がある。生徒の要望も2極化され、学校部活動以外に休日のクラブ活動の参加まで行う生徒が少ない状況である。今後、地域クラブ活動の運営事項を検討していく必要がある。

休日のクラブ活動において、学校部活動との連携が重要である。種目により、茨城県中学校体育大会以外にも地区大会等に参加することがあり、その日程調整を踏まえた場所の確保等が必要になる。

また、種目によって指導員の不足が大きな課題として指摘されている。スポーツ少年団やスポーツ協会等へ指導員募集の案内を出すなど、行政やコーディネーターによる関係者への働きかけを検討している。

今後の展開

令和7年度からは、持続可能な地域クラブ運営とするために、会費負担を開始する。保護者の理解を得るために、会費負担の必要性について説明する。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

年度	R4	R5	R6	R7
常陸太田市	常陸太田市部活動の運営方針改定	部活動数の適正化に向けた評価・合同部活動・拠点校部活動等による活動		
		地域移行に向けた実証事業（スポーツ庁委託事業）		
		休日の地域クラブ活動 ※先行競技 2 競技 R 6. 4月～ 軟式野球 R 6. 10月～ バレーボール	実証競技追加 R 7. 11月 サッカー	実証競技追加予定(3 競技) バスケットボール、卓球 ソフトテニス
		年間を通じた検証 ・成果と課題の整理 ・環境や規則の整備 ・施設利用方法 ・指導者の確保 ・今後の地域展開計画 など ※ R 7 年度より、活動費の受益者負担を開始		
	常陸太田市地域クラブ活動推進委員会設立			
	中学校部活動の地域移行に係る検討委員会			
茨城県	運営方針改定	休日部活動の段階的な地域移行		
		地域移行に向けた実証事業	+重点地域に係る政策課題への取組	
		人材バンク設置	委託事業支援に係る業務委託	
国	総合的ガイドライン	「学校部活動の地域クラブへの移行」改革推進期間（R 5～R 7）		
		部活動の地域移行に向けた実証事業（スポーツ庁・文化庁）		
		「地域移行」から「地域展開」へ ※学校も地域の一部として	学習指導要領解説見直し	

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県高萩市

自治体名：茨城県高萩市

担当課名：教育委員会生涯学習課

電話番号：0293-23-1132

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	193.55km ²
人口	25,815人
公立中学校数	3校
公立中学校生徒数	557人
部活動数	26部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、高萩市の運動部活動は、8競技26部が活動している。

中学校3校は、少子化に伴い生徒数の減少が進んでいるため、学校部活動においては、従来どおりの運営や学校単位でのチーム編成・大会出場が困難になってきている。

そこで、高萩市では、これまでの学校部活動の概念から脱却し、休日部活動の地域移行、拠点校方式、新たな競技に挑戦するための環境整備など、高萩市の実態に合ったスタイルを模索してきた。

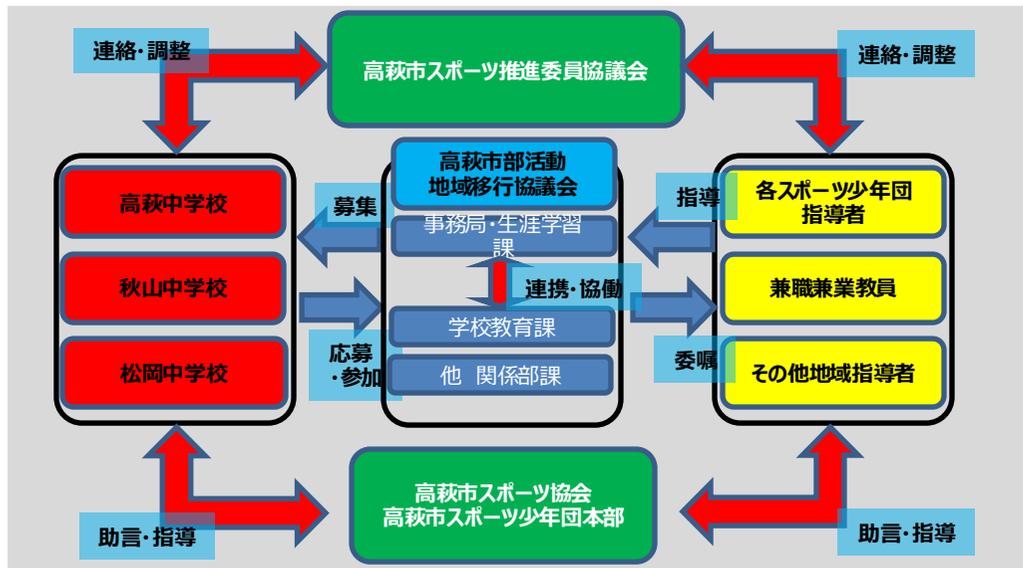
令和8年度における休日部活動の完全移行に向けて、高萩市独自スタイルをより良いものにしていきたいと考えている。

今後、学校管理下を離れ、地域クラブとして活動していくことが必要であるため、学校教職員以外の地域内の指導者、及びクラブ体制を整えていかなければならない。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・生涯学習課（スポーツ推進G）：部活動改革の主管課、学校との連絡調整
運動部活動の環境整備
- ・生涯学習課（生涯学習G）：文化部活動の環境整備
- ・学校教育課（学校教育G）：学校に関する事項

◎首長部局

- ・企画財政課：予算措置

年間の事業スケジュール

- 令和6年4月 地域移行チラシ配布
市内全中学校へ11競技
【サッカー/剣道/ソフトテニス/
バレーボール/柔道/野球/
卓球/バスケットボール/空手/
硬式テニス/ウエイトリフティン
グ】
- 令和6年5月 運動部専門委員会の開催
- 令和6年11月 協議会の開催
- 令和7年12月 運動部専門委員会の開催
- 令和7年3月 協議会の開催

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3校	実施した地域クラブ総数	9クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		8クラブ（部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1クラブ
全体の指導者数	30人	全体の運営スタッフ数	30人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
高萩BBC	市町村	軟式野球	週1回	土日祝日のうち3時間		通年	市内中学校グラウンド、高萩市民球場	3人	3人	なし	中体連：部活動（拠点校）
たかはぎバスケットボールスクール	市町村	バスケットボール	週1回	土日祝日のうち3時間		通年	市内中学校グラウンド	8人	8人	年会費1,500円	中体連：部活動
高萩FC	市町村	サッカー	週1回	土日祝日のうち3時間		通年	市内中学校グラウンド	3人	3人	なし	中体連：部活動（拠点校）

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 高萩BBC（野球）は、12月に市内の野球少年団と合同練習を実施し、連携を図った

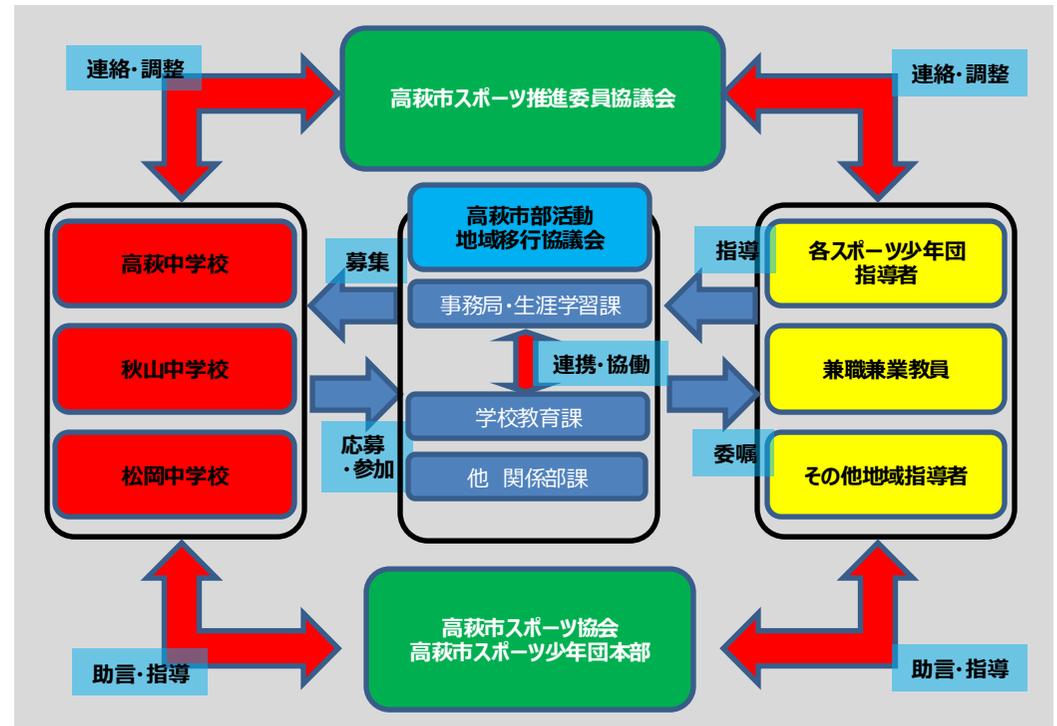
2.実証内容と成果

主な取組例

●地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、野球
運営団体名	高萩BBC、高萩FC
期間と日数	サッカー：総体後から（週1回程度） 野球：通年（週1回程度）
指導者の主な属性	教職員
活動場所	市内中学校グラウンド
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者送迎等
1人あたりの参加会費等（年額）	サッカー：なし 野球：なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

※明確な役割分担は決まっていない

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・野球は、シーズンオフに少年団との合同練習を行い、少年団との交流を図った。
- ・サッカーは、新人戦以降、少年団との連携協力体制の構築に向け交流を開始した。
- ・柔道は、少年団が受け皿となり定着した。

取組の成果

高萩市では、試行的ではあるが令和5年度から4競技、令和6年度から4競技、合計8競技すべての学校部活動（運動部）が手探りながら取組み出した。主に合同練習となっている。

また、目標とする大会は中体連（総体・新人戦）であるため、学校部活動の横スライド傾向が根強いことから、教員が離れることは現実的ではなく、教員頼みという一面を持ち合わせている。

一方で、令和5年度から実施していたバスケットボールについては、スクール形式での練習の場としていることから、大会参加もないため陰りが出てきた。

なお、柔道については、既に少年団が受け皿となり、クラブとして大会参加している。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・コーディネーター不在

今後の課題と対応方針

- ・指導員のスケジュール調整

少年団指導員がクラブ指導員を兼ねることとなれば、事前に計画的な指導員配置を行い、継続的に指導できるような申し送り事項の共有が課題だと思料する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

現状、中体連大会へ参加することは学校単位が基本となっていることから、指導者は教員に頼っているのが実情である。

今後、中学生に適切な指導を行うためには、様々な知識やスキルが必要である。各競技ごとにクラブ活動の方向性と併せて、指導者の確保、及び指導者の資質向上のための研修を定期的実施する必要がある。

この度、茨城県教育委員会主催の「令和6年度 地域クラブ指導者養成研修会」が実施されることから、地域クラブ指導者へ積極的な受講に向けた案内を行った。

本市独自の人材バンク等は設けてなく、現時点においては各競技の部活動顧問や地域クラブ指導者に頼っているため資格の有無については把握できていない。

取組の成果

令和6年度においては、柔道とバスケットボールで教員以外の指導者がいたが、必要性を感じながらも、教員が携わっていたこともあり、本市独自で地域クラブ指導者養成研修会等は未実施であった。

「令和6年度 地域クラブ指導者養成研修会」の内容として、指導者の役割、安全・効果的なトレーニング指導の基礎知識、スポーツ指導者に必要な医学的知識、ジュニア期におけるマルチスポーツの重要性、スポーツと法、コンプライアンスの徹底などが盛り込まれているため、繰り返し受講することにより、指導者の質の保証を保っていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

- ▶市独自での地域クラブ指導員の指導者研修は未実施
- ▶「令和6年度 地域クラブ指導者養成研修会」
(県教育委員会主催)
 - ・指導者の役割～グッドコーチとは？
 - ・安全・効果的なトレーニング指導の基礎知識
 - ・スポーツ指導者に必要な医学的知識
 - ・ジュニア期におけるマルチスポーツの重要性
 - ・スポーツと法
 - ・コンプライアンスの徹底

指導者研修の参加実績

開催方法：オンライン（オンデマンド形式）
期間：令和7年3月4日から令和7年4月30日

受講者の声

- ▶受講した地域クラブ指導者の声
「専門競技の認定指導者講習会内容と重複する部分もあるが、自身の指導者としての知識をアップデートしたり再認識する良い機会となった。」

開催方法：オンライン（オンデマンド形式）

期間：令和7年3月4日から令和7年4月30日

今後の課題と対応方針

- 【課題】 教員と地域指導員のバランス
- 【対応方針】 協議会事務局職員による調整

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ▶野球：少年団との交流会
- ▶バスケットボール：スクール形式
- ▶柔道：既に少年団が受け皿
- ▶卓球：地域クラブ
- ▶サッカー：少年団、サッカー協会との協議
- ▶バレーボール：市内中学校合同練習
- ▶ソフトテニス：市内中学校合同練習
- ▶剣道：1校（高萩中の生徒のみ）

取組の成果

- ▶野球：中1ギャップの解消に寄与
- ▶バスケットボール：スクール形式の先細り
- ▶柔道：既に少年団が受け皿
- ▶卓球：地域クラブ員の技術向上
- ▶サッカー：計画的な指導員配置予定
- ▶バレーボール：受け皿模索
- ▶ソフトテニス：受け皿模索
- ▶剣道：1校（高萩中の生徒のみ）

今後の課題と対応方針

【課題】

- ・中体連大会をベースに考えると、学校部活動からの横スライド傾向は根強いままであると思料する。
- ・大会等がないと目標がないため、先細り感がある。

【対応方針】

- ・団体競技については、拠点校方式における学校管理下を離れた体制の構築が必要。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

▶令和6年度は、内容充実に至らなかった。

中体連大会と平日部活動のゴールが示されない中で、進むことへの不安が強まってきた。

高校も同じような状況でスタートしたはずが、従来どおりの状況下であり、先に進むことへの抵抗が強くなったことが要因。

活動の詳細

参加人数	391人	指導者数	30人
属性	団体競技においては拠点校方式		
具体的な内容	●合同練習		
子供の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 単独校では少人数でチームが組めず、試合も出来なくて楽しくなかったが、他校と一緒にチーム編成により、大会出場のみならず、県北地区を勝ち上がり、県大会へ出場することができてうれしかった。 ● 他校と一緒にすることで、試合に出ることが少なくなってしまった。 		
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでの部活動のように、時間的な縛りを緩和する形で一生懸命やらせてあげたい。 ● 勝利至上主義ではないが、勝つことの喜び、負けることの悔しさ、そこからの頑張りなど、頑張ることの意義が薄れてしまうのではと懸念する。 ● 平日の部活動ある限り、無理があるのではないか。 		
運営経費	令和8年度から一律で徴収する予定 ※年会費：保険代、連絡ツール使用料 ※月謝：指導者謝金		

今後の課題と対応方針

【課題】・中体連大会と平日部活動のゴール地点
 ・高校における地域移行とのバランス

【対応方針】・中体連大会と平日部活動に注視
 ・高校の件は切り離すこと

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

高萩市内の学校部活動（運動部）においては、令和5年度は4競技のみの取組みだったが、今年度は試行段階も含めて、すべての競技（8競技）で取組み出した。

多くの中学生は学校部活動に所属し、平日は学校部活動として活動し、目標となる大会は、中体連大会（総体・新人戦）がベースとなる。

このようなことから、休日の活動においても教員頼りになっているのが実情である。

実証事業において、課題が見えた中において、推し進めることなく、国県の動向に注視し、それを踏まえたうえで検討する必要がある。

●成果の評価

学校部活動（運動部）のすべてが取組み出したことは成果。

しかし、学校部活動の横スライド感があることから、「これまで」と「これから」で困惑している。これまで、実証事業を実施（令和5年度、6年度）し、前に進んだと思っていた部分でも、新年度になると後戻りする面もあった。

ゴール地点が明確にならない状況下で走り、どこへ向かうのか、一旦立ち止まるべきでは等、不安視する声もあったが、小規模自治体のメリットを活かし、引き続き取り組むこととした。

●今後に向けて

実証事業を踏まえたうえで、令和8年度からの地域展開を目指す。今後、休日及び平日のゴールが明確になるまでは、国県の動向に注視し、適宜見直しを伴うものと思料する。

また、受益者負担となる会費についても上記とセットで検討する。

アンケート結果・参加者の声

●参加者の声

中学3年生（野球）

昨年、新チームになった時、単独チームでは大会参加ができなく、不安があった。しかし、「高萩BBC」として他校の仲間と一緒に練習するなかで、試合に出たいという気持ちがより強くなり、レギュラーの背番号を付けることができた。

新人戦、総体、いずれも県大会へ進むことができたことは、私にとって大きな自信が付き、高校野球へ挑戦しようと思った。

中学2年生（柔道）

小学生の時から教わった指導者の方から、中学生になっても引き続き指導を受けることができている。

私の戦術、特徴を基に試合でアドバイスをもらっていることは安心感がある。

中学2年生（サッカー）

今年、私たちの代になって迎える新人戦に向けて、「高萩FC」として参加することになった。最初は他校の生徒と一緒に楽しく感じなかったが、練習、試合を重ねるたびに徐々に仲間意識がうまれた。新人戦で県大会へ出場できたことはうれしかった。頑張っ総体ではレギュラーとして出たいと思う。

中学3年生（バスケットボール）

部活動がなくなる不安から、友人は他市のクラブへ通うなど、小学校から一緒に仲間がバラバラになってしまいました。

私は学校部活動を選び、休日の練習をスクールで他校の生徒とできたことはうれしかった。

できれば大会もこのスクールの仲間と出てみたかった。

アンケート結果・広報資料

広報資料については、リーフレットを作成のうえ配布。
保護者等からの質問は特になかったが、他自治体の担当者からの問い合わせが若干あった。
アンケートについては令和6年度未実施。



【生徒への参加啓発チラシ】

高萩市**休日**部活動の地域移行がスタートしています！

基本的コンセプトは「休日における生徒の選択肢を増やす」

高萩市では、これまでの学校教育活動として行われてきた部活動の意義や良さを継承しつつ、子供たちが参加するスポーツ・文化活動を持続可能なものとすることを目指し、さらに様々な活動が可能となるべく制度改革を推進していきます。

～高萩市休日部活動地域移行ロードマップ～

種目	R5	R6	R7	R8
軟式野球	実施中			休日部活動の完全移行
バスケットボール	実施中	→		
柔道	実施中			
卓球	実施中			
サッカー		実施予定		
バレーボール		実施予定		
ソフトテニス		実施予定		
剣道		実施予定		
その他のスポーツ	ウエイトリフティング 実施中	→		
	硬式テニス	実施予定		
	空手	実施予定		
吹奏楽			実施予定	
その他の文化活動			検討中	

※ R6実施予定の競技は、中学校総合体育大会終了後、順次開始予定です。

いきなり学校の部活動がなくなるわけではありません。国及び茨城県の方針により、令和7年度末に休日に部活動に従事する教員をゼロにすることを目標とするための実証事業を現在実施しています。平日の部活動については、休日の部活動の移行完了後、その可否についてさらなる検討が必要となります。また、平日の部活動と休日の地域活動は必ずしも同じである必要はありません。中学生年代には、様々なスポーツ種目を実施することで身体能力が向上し、様々な文化に触れ合うことで感性が豊かになり、人生を通じた生涯活動の向上に繋がります。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【野球】



【柔道】



【バスケットボール】



【卓球】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

協議会設置、
検討開始

受け皿団体や
指導者の選定、
拠点校の選定

学校現場との
調整

生徒、保護者へ
の説明

地域クラブ活動
の開始

令和6年

地域クラブ活動
の拡大

●ステークホルダー
受け皿団体

●経過

受け皿団体として見込んだ競技に実際、参加希望者がいない競技があった

●実施にあたって生じた課題

学校部活動にある競技を選択し、中体連大会へ参加することがベースにある

●実施内容、工夫した点等

主に学校部活動競技を行いながら、マルチスポーツとしての視点

●ステークホルダー
学校現場

●経過

学校部活動がなくなる限り教員のかかわりが生じる

●実施にあたって生じた課題

大会参加要件

●実施内容、工夫した点等

引き続き検討事項

●ステークホルダー
地域指導員（少年団）

●経過

これまでの部活動のように、時間制限等、縛りが無い状況下で目いっぱい活動させてあげたい

●実施にあたって生じた課題

中学生なのに少年団の活動より短い活動時間

●実施内容、工夫した点等

現状、枠内での活動になるが、国県等の動向を注視

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 北茨城市

自治体名：茨城県北茨城市

担当課名：生涯学習課

電話番号：0293-43-1111

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	186.79 km ²
人口	39,898 人
公立中学校数	4 校
公立中学校生徒数	891 人
部活動数	20 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市では、年々生徒数が減少してきたことと、様々な競技クラブの活動が活発化してきたこともあり、中学校で運動部に入部する生徒が激減してきている。このため、多くの競技で単独校で団体戦が組めない事態になっており、合同部活動を含め、地域移行を進めることは、生徒の活動の場を確保するために、たいへん重要だと考えている。

スポーツ協会、スポーツ少年団の協力もあり、令和7年度中からはほとんどの運動部活動が移行出来る予定であるが、吹奏楽部についてはまだ移行の目処が立っていない。また、本市には総

合型のスポーツクラブがなく、市教育委員会が主導する形の「行政主導型」で地域移行を進めているが、運営主体がないため担当課の業務量が増大してしまうことが課題にある。

令和4年度に検討委員会を立ち上げ、令和5年度は各中学校で1部活動は地域クラブへの移行を実施、令和6年度は兼職・兼業の教員や既存のクラブ、少年団、スポーツ協会の方々に協力を得ながら、4つの地域クラブを立ち上げて活動を行った。

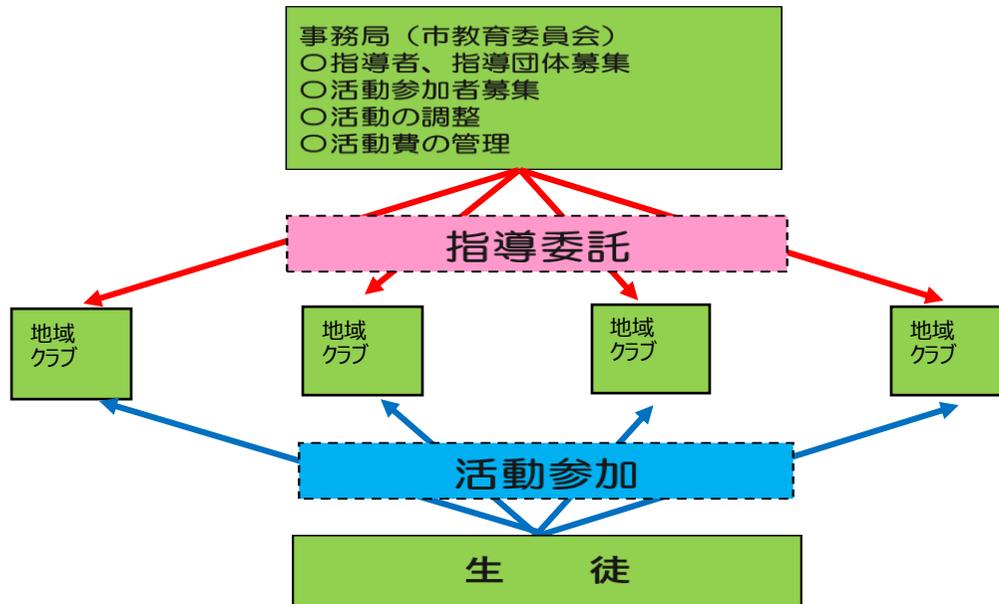
北茨城市生徒数の推移

年度	生徒数（人）	年度	生徒数（人）
平成26年度	1,209	令和元年度	1,027
平成27年度	1,165	令和2年度	1,004
平成28年度	1,165	令和3年度	1,013
平成29年度	1,115	令和4年度	986
平成30年度	1,072	令和5年度	945

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

- ◎教育委員会（生涯学習課）
 - ・クラブの監督
 - ・会計管理
 - ・新規クラブ開拓
- ◎教育委員会（学校教育課）
 - ・学校との折衝

年間の事業スケジュール

令和6年4月	地域クラブ活動開始
令和6年8月	総体後、「中郷卓球クラブ」（男子）、「北茨城ソフトテニスクラブ」、「NIB」、「NIG」、「中郷柔道スポーツ少年団」の活動開始
令和6年10月	第1回検討委員会
令和7年1月	生徒、保護者、指導者、学校へのアンケート
令和7年2月	中学校ごとの新入生説明会での説明 第2回検討委員会
令和7年3月	指導者研修会

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	4校	実施した地域クラブ総数	7クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		7クラブ（11部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	29人	全体の運営スタッフ数	0人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
磯原体操スクール	市教育委員会	体操	月2回程度	土日どちらか午前中	3年 6人 2年 8人 1年 3人	R5.5～	磯原中学校 滑川スポーツクラブ	2人	0人	0円	中体連：部活動 その他：部活動
中郷卓球クラブ	市教育委員会	卓球	月4回程度	土日どちらか午前中	3年 7人 2年 6人 1年 9人	R5.11～	中郷中学校	2人	0人	0円	中体連：部活動 その他：部活動
J I N	市教育委員会	軟式野球	月4回程度	土日どちらか午前中	3年 5人 2年 11人 1年 4人	R6.4～	中郷中学校 常北中学校	10人	0人	0円	中体連：部活動 その他：部活動

2.実証内容と成果

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
北茨城ソフトテニスクラブ	市教育委員会	ソフトテニス	月3回程度	土日どちらか午前中	3年 2人 2年 11人 1年 17人	R5.5~	関本中学校 常北中学校	5人	0人	0円	中体連：部活動 その他：部活動
N I B	市教育委員会	ソフトテニス	月3回程度	土日どちらか午前中	2年 9人 1年 21人	R6.8~	中郷中学校 磯原中学校	2人	0人	0円	中体連：部活動 その他：部活動
N I G	市教育委員会	ソフトテニス	月3回程度	土日どちらか午前中	2年 8人 1年 10人	R6.8~	中郷中学校 磯原中学校	2人	0人	0円	中体連：部活動 その他：部活動
中郷柔道スポーツ少年団	市教育委員会	柔道	月3回程度	土日どちらか午前中	1年 3人	R6.8~	中郷中学校	5人	0人	0円	中体連：部活動 その他：部活動

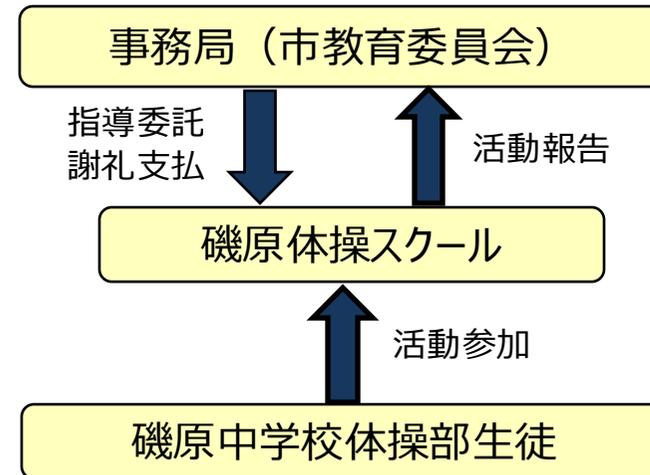
2.実証内容と成果

主な取組例

●磯原体操スクール 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	体操
運営団体名	市教育委員会
期間と日数	体操：月2回程度
指導者の主な属性	教員（兼職・兼業）、体操クラブ指導員
活動場所	磯原中学校、滑川スポーツクラブ
主な移動手段	自転車、保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者・主任指導者
役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を行う
- 指導者 1名
役割：活動において、主任指導者の補助として、指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 生徒、保護者、指導者、学校へアンケートを行う。
- 地域移行した地域クラブには、市教育委員会が事務局として、指導助言や指導者への研修を行う。
- 指導者との練習時間の調整等は部活動顧問が直接行い、連絡を取る。

取組の成果

- アンケート調査を実施したことにより、生徒、保護者、指導者のニーズを知ることができ、その後の改善につながった。学校の教諭にアンケート調査を実施し、兼職兼業の希望の有無がわかり、今後のクラブ運営につながった。
- 市の少年団指導者研修会を活用し、指導者への研修を行った。指導に関する問題はなかった。
- 指導者と部活動顧問が連絡を取り、練習計画や子どもたちの様子（情報共有）等を確認し、調整を行った。

令和6年度の研修会

実施日	令和7年3月2日（日）
場所	複合防災センター
主催	事務局
内容	小学生年代の指導者に求められる役割
参加者	39人

今後の課題と対応方針

- 指導者研修会について、1回のみで開催であったため、来年度は3回の実施を目指す。
- 指導者のアンケート結果内に、指導者と学校、事務局の連携が不足しているとの回答があったため、来年度は協議する機会を作り、繋がりを強化していく。
- 運営団体の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行うことが必要。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- 指導者への研修を行い、指導者としての資質を向上させる。
- 指導者には登録時に各競技についての指導資格や指導歴について確認し、それを基に指導者委託をする。
- 指導者の数については、市内の少年団や各競技の協会へ指導依頼を続けていく。

取組の成果

- 指導者研修会「小学生年代の指導者に求められる役割」を行い、39人の参加があった。
- 今年度の登録した指導者29人については指導資格や指導歴を確認してから指導者委託をしたため、安心して指導を任せられた。また、生徒によるアンケート結果でも、回答した生徒が技術の上達を感じられる結果になった。
- 地域クラブで指導者のトラブルは発生しなかった。

地域クラブに参加した生徒の回答 令和7年1月実施

○地域クラブに参加して、技術が向上したと思いますか。

向上したと思う 70.6%

向上したと思わない 11.7%

どちらとも言えない 17.8%

○向上したと思う理由はなぜですか。

- ・今いる学校の練習と違うメニューで練習できたから
- ・教える人が変わるため、いろいろな練習ができるから
- ・違う人から教えてもらうことで、たくさん戦略が学べたと思うから
- ・そのスポーツを長年してきた人から指導を受けて、試合の立ち回りかたなどが以前より上手になったから

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

- 【研修】小学生年代の指導者に求められる役割
- ・講師：水戸ホーリーホックアカデミーヘッドオブコーチ
鳥羽 俊正 様
 - ・対象：北茨城市地域クラブ指導者
北茨城市スポーツ少年団指導者
 - ・内容：スポーツの楽しさの追求
指導者の持つべき技術と知識
子どもたちの成長のための環境作り
トレーニングの留意点
保護者へのアプローチ

指導者研修の参加実績

- ・開催日： 3月 2日
- ・開催回数： 1回
- ・参加人数： 39人

受講者の声

参加者アンケート結果（抜粋）

Q 研修について

- | | |
|----------------|-------|
| とても参考になった | 92.1% |
| どちらかといえば参考になった | 7.9% |

【参加した地域クラブ指導者の声】

- ・「育成世代に求められる基礎をしっかりと磨き、次に託して連携していく大切さを学んだ。」
- ・「今後は子どもに考えさせて、導く指導に変えていきたいと思った。」
- ・「子どもたちに指導する時に大切なことがわかった」

今後の課題と対応方針

- 指導者に対して、資質向上のための研修の受講や資格取得を促進する。
- 今年度は1回のみ開催だったが、来年度はオンライン研修等を活用して複数回研修を行う。
- 参加者の安全確保や見守りに重点を置いた研修を実施する。
(普通救命講習等)

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○筑波大学の長谷川悦示准教授をオブザーバーとして、部活動の地域移行に関する検討委員会を開催し、進め方を検討する。

○学校と連携して進めていくため、中学校校長と本市の取組及び今後の見通し等の説明を実施。

○市内の少年団や各競技の協会に対し、指導依頼を続ける。

○各方面からの意見を集約し、地域に合った活動ができるように整備する。

取組の成果

○検討委員会を年2回実施した。これによりそれまでの取組の振り返りと、アンケート調査の結果をもとに今後の進め方の再確認ができた。

○学校に協力してもらい、生徒と保護者に地域クラブについてのチラシを配布した。新入生説明会でクラブの周知をする機会を得た。

○少年団、スポーツ協会に協力してもらい、令和7年度からサッカー、バレーボール、バスケットボール、剣道、陸上、バドミントンの新規クラブを設立する予定。

今後の課題と対応方針

○指導者、事務局、学校とで更なる連携強化を図る。

○指導者確保のため、学校、保護者だけでなく、関係団体へも地域クラブの活動について再度周知し、協力をいただけるよう努めていく。

●第1回 検討委員会

- (1)北茨城市部活動の地域移行に関する検討委員会の組織について
- (2)令和6年度に地域移行を実施している地域クラブに関する現況について
- (3)令和7年度の見通しについて
- (4)令和8年度移行の完全移行に向けた取り組みについて

●第2回 検討委員会

- (1)地域移行を実施している地域クラブに関する現況について
- (2)部活動地域移行に関するアンケート調査の結果について
- (3)令和7年度の移行の見通しについて

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

指導者の謝礼、生徒の保険代、地域クラブの消耗品代については本来は受益者負担であるが、当面は市から補助を出すことにより無償化していく。ただし大会参加費、遠征費は除く。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

- ・システム整備に係る費用（なし）
- ・ホームページ構築費用（なし）
- ・事務用品（なし）

■ランニングコストの分析

- ・会場借料（17千円）
- ・指導者謝金（2,020千円）
- ・事務局人件費（なし）
- ・消耗品費（462千円）

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算を行った。
(検証結果の詳細は次ページ参照)

収支バランス

・地域スポーツクラブ活動の運営や指導者配置等に必要なコストを検証するとともに、こうしたコストをどのように賄っていくかについて受益者負担等と公的資金との適切なバランスも含めて収支構造を検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

地域移行前のアンケートでは回答いただいた保護者のうち51.6%の方が、参加費が地域クラブへ参加させるかの判断材料となると回答した。このため本市では当面の間は参加費（指導者への謝礼、生徒の保険代）は徴収しないこととした。

今年度は該当する部活動に加入している生徒のうち78.3%の生徒が地域クラブに加入した。

令和8年度以降、参加料を徴収する場合の試算は右図のとおり。

項目		費用
スポーツ活動費		2,674,434
	指導者謝金	2,020,800
	会場使用料	17,000
	消耗品費	462,874
	交通費	173,760
スポーツ活動費（保険料）		165,200
	生徒	113,600
	指導者	51,600

※保険料は自己負担とする

①	活動月数	6ヶ月
②	申込者数	140人
③	延べ参加者数	1753人

案①「スポーツ活動費すべてを受益者負担」

・月謝（申込者全員負担）

3,183円/月 根拠：費用／①／②

・1回ごと（参加者のみ負担）

1,525円/月 根拠：費用／③

案②「指導者謝金のみ受益者負担」

・月謝（申込者全員負担）

2,405円/月 根拠：費用／①／②

・1回ごと（参加者のみ負担）

1,152円/月 根拠：費用／③

今後の課題と対応方針

○令和8年度以降、すべての部活動の地域移行が完了した際には、指導者への謝礼や生徒の保険代等を徴収せずに活動が継続できるかは市の財政次第になってしまう。急に参加費を徴収するとなると、保護者の負担感が増え、加入率が下がる可能性がある。保護者の負担感を軽減するためにも、本来なら参加費としていくらかかっているかということを保護者に

周知していく。受益者負担を求めたとしても、一定の人数の参加がなければ賄えないことになるため、低廉な受益者負担を求めたうえで、持続的に活動することを前提とした仕組みを構築していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

○生徒の安全を確保や、保護者の送迎の負担軽減を図るため、学校体育施設を中心に実証事業の活動を実施するよう調整を行う。

○2校合同チームがあり、毎週の送迎の負担軽減を図るため、それぞれの学校で週交代で活動を行う。

取組の成果

○全157回の活動において、約84%は、学校体育施設を利用した活動となった。

○保護者にアンケート調査を行ったところ、活動する場所が自分の学校以外の場合でも地域クラブに参加させるとの回答が69.8%、参加させないとの回答が30.2%であった。参加させない保護者の理由として一番多かったものが送迎の負担である。

保護者のアンケート調査の回答 令和7年1月実施

○活動する場所が自分の学校以外の場合でも地域クラブに参加させるか。

参加させる	69.8%
参加させない	30.2%

○参加させないと思う理由はなぜですか。

- ・送り迎えが大変。
- ・遠い場所だと送り迎えができない。
- ・送迎しなければ無理なので、参加しなくてもよいのなら参加させない。

今後の課題と対応方針

○実証事業の活動日に部活動が行われている学校も見られることから、学校と連携を取り、部活動と実証事業の活動を調整できるよう事業の理解を求める。

○今後、部活動の地域移行に伴い、地域クラブ活動の拠点となる学校体育施設を利用しやすい環境へと整えるため、学校施設開放事業を利用している団体との利用調整を行う。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和8年度には休日の部活動を完全移行することを目標として、令和5年から移行を開始し、令和7年度にはほとんどの休日部活動が移行できる予定。

今後生徒数が減少していくことを考え、地域クラブを継続して運営していくために、クラブの参加料を徴収する可能性があるため、保護者への周知を徹底していかねばならない。また、クラブに移行して終了ではなく、生徒の次年度継続率100%を目標にし、指導者の質の向上を図る。

●成果の評価

アンケート調査を行ったことによって、生徒、保護者の求めていることがわかり、今後のクラブ運営の方法や、課題が明確になった。

指導経験の豊富な指導者に委嘱したこともあり、クラブに参加した生徒から技術が向上したと思うという意見が7割を超えていた。

指導者研修会が1回のみであったため、来年度オンライン研修等を活用し、複数回研修を行う。

●今後に向けて

令和8年度以降は学校部活動の種目にはない新規クラブを設立し、持続的にスポーツ・芸術文化活動が出来る環境を整備し、生徒の選択肢を増やす方針。引き続きアンケート調査を行い、生徒、保護者、指導者の意見を集約しながら地域クラブを運営していく。

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

Q.来年も地域クラブに参加したいと思いますか？

参加したい	57.0%
参加したくない	11.7%
どちらとも言えない	31.3%

Q.地域クラブに参加して、技術が向上したと思いますか？

向上したと思う	57.0%
向上したと思わない	11.7%
どちらとも言えない	31.3%

Q.平日の部活動と違う種目の地域クラブに参加してみたいですか？

参加してみたい	25.9%
参加したくない	48.9%
どちらとも言えない	25.2%

Q.地域クラブにどんな種目があるといいと思いますか？※現在の部活動にない種目でもかまいません。

- ① e-スポーツ
- ② ダンス
- ③ 弓道
- ④ 茶道
- ⑤ 書道

●参加者の声

中学2年生

そのスポーツを長年してきた人から指導を受けて、試合の立ち回り方などが上手になった。違う人から教えてもらうことでいろんな戦略が学べた。

中学1年生

平日は同じ部活の内容でも、土日の部活はいろいろな種目を出来るようにしたい。学校にないような種目を体験したい。

中学1年生

今いる学校の練習と違うメニューで練習でき、日に日に上達しているを感じる。

指導者

来年度の大会の参加の形態など、不安に思うこともある。学校の先生がクラブ指導者に入ってくれており、学校との連絡が取れている。

アンケート結果・広報資料

令和7年1月

休日部活動の地域移行

- Q** 地域移行ってなに？

A これまで学校が主体となってきた部活動を地域が主体となって活動する「地域クラブ」に移行することです。
- Q** なぜ地域移行するの？

A 少子化の中でも将来にわたり、スポーツ・文化芸術活動に關する機会を確保するため地域の力を活用する必要があります。
- Q** 地域クラブに参加するにはどうすればいいの？

A 地域移行が始まる部活動に所屬している生徒には「地域クラブ」の入会料をお渡しします。入会料を提出すれば参加できます。(令和8年度以降は全生徒対象になります)
- Q** お金はかかるの？

A 現在のところ、指導者への報酬や保険料は市が負担するのではありません。ただし、大会参加費などの費用がかかる場合があります。

地域移行になったら休日の活動を自分で選択できます！

平日の練習と違う休日
をやってみよう！

楽しく体を
動かしたい！

平日の練習と同じ休日
を過ごしたい！

休日は自分の時間を
過ごしたい！

活動日数・活動時間	活動場所	指導者
・土日いずれか及び平日 ・1日3時間以内	・学校施設 ・地域クラブ運営団体の活動場所	・スポーツ少年団 ・スポーツ協会加盟団体 等

今後のスケジュール(予定)	令和7年度(移行完了)		令和8年度(完全終了)	
	運動部文化祭すべての休日部活動を年度中に移行予定です。		学校での休日部活動は完全になくなります。	
	学校部活動	地域クラブ	学校部活動	地域クラブ
	一部有り	有り	無し	有り

■運営している地域クラブ
 磯原体育スクール(磯原中体育部) 中郷中体育部(中郷中体育部) JIN(中郷中・常北中体育部)
 北茨城ソフトテニスクラブ(磯原中・常北中ソフトテニス部) N1B(中郷中・磯原中男子ソフトテニス部)
 N1G(中郷中・磯原中女子ソフトテニス部) 中郷柔道スポーツ少年団(中郷中柔道部)

お問い合わせ先 北茨城市教育委員会 生涯学習課・学校教育課 ☎ 0293-43-1111

【生徒・保護者への広報資料】

地域クラブ活動 開始予定

		R5	R6	R7	R8
野球部	中郷中		4月		
	磯原中			総体後(市統一)	
	常北中		4月		
サッカー部	中郷中			総体後(磯原中と合同)	
	磯原中			総体後(中郷中と合同)	
	常北中			総体後(磯原中郷と合同または単独)	
バスケットボール部男子	中郷中			総体後(市統一)	
	磯原中			総体後(市統一)	
	常北中			総体後(市統一)	
バスケットボール部女子	中郷中			総体後(市統一)	
	磯原中			総体後(市統一)	
	常北中			総体後(市統一)	
ソフトテニス部男子	中郷中		8月		
	磯原中		8月		
	常北中		8月		
	関本中	5月			
ソフトテニス部女子	中郷中		8月		
	磯原中		8月		
	常北中		8月		
	関本中	5月			
バレーボール部	中郷中			総体後(市統一)	
	磯原中			総体後(市統一)	
	常北中			総体後(市統一)	
卓球部男子	中郷中		8月		
卓球部女子	中郷中	11月			
	磯原中			※	※
柔道部	中郷中		8月		
	磯原中			総体後(中郷中と合同)	
剣道部	中郷中			総体後(磯原中と合同)	
	磯原中			総体後(中郷中と合同)	
陸上部	中郷中			総体後	
	磯原中	5月			
体操部	中郷中				
	磯原中				
バドミントン部	関本中			総体後	
	中郷中			※	※
	磯原中			※	※
吹奏楽部	常北中			※	※
	常北中			※	※
	関本中			※	※
パソコン部	中郷中			休日の活動はなし	
文芸部	中郷中			休日の活動はなし	
文化部	磯原中			休日の活動はなし	
芸術部	常北中			休日の活動はなし	
英会話部	関本中			休日の活動はなし	

【検討委員会資料】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【指導の様子】



【指導の様子】



【指導者研修会の様子】



【指導者研修会の様子】

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

学校、スポーツ協会、競技団体、市教委

経過

令和4年度より検討委員会を設置。移行パターン、開始時期の確認、保護者への周知方法の確認、令和5年度以降開始部活動の決定を行った。令和4年11月22日から各スポーツ団体の代表者へ説明と協力依頼を実施。令和5年2月に各中学校における新入生説明会にて地域移行について説明。令和5年から地域移行を開始し、令和6年度以降からクラブを拡大していくために、令和5年8月に各競技の市中体連専門委員長と面談を実施した。

実施内容

令和5年5月から市内4中学校の1部活動において、地域クラブ活動を開始した。令和6年度からは総体後に、3つの新規クラブが活動を開始し、全7クラブとなった。この内、4つのクラブは2つの中学校の生徒が参加する形態である。

実施にあたって生じた課題

休日のクラブ活動において、指導者と学校との連携がうまく取れていないという課題があった。教諭が兼職兼業で指導しているクラブは連携が取れているが、地域の指導者のみのクラブは学校との繋がりを強く望んでいるため、学校と地域クラブとで協議する場をセッティングする。

また、種目によっては指導者の不足が課題として指摘されている。スポーツ協会やスポーツ少年団へ指導者募集の案内を出すなど、再度関係者への働きかけを検討する。

今後の展開

令和7年度からは、サッカー、バスケットボール、バレーボール、剣道、陸上、バドミントンの新規クラブを立ち上げる予定。令和7年度についても、保護者の経済的負担を減らすため、受益者負担は取らない方針。今後とも保護者の理解を得るために、地域クラブの紹介パンフレット等を作成し説明していく。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

北茨城市教育委員会 部活動の地域移行スケジュール（案）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
移行 部活動	移行完了 目標数	0	各中学校1部活動	各中学校半数の部活動	各中学校全部活動	
	中郷中		女子卓球	野球、男女ソフトテニス 男女卓球、柔道	全競技、吹奏楽	
	磯原中		体操	野球、男女ソフトテニス 体操	全競技、吹奏楽	
	常北中		柔道	野球、男女ソフトテニス	全競技、吹奏楽	
	関本中		ソフトテニス	ソフトテニス	全競技、吹奏楽	
事務局	学校教育課	学校教育課	生涯学習課	生涯学習課	生涯学習課	
事務局活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 運動部活動の地域移行に関する検討委員会設置 意識調査の実施 生徒、保護者への周知 指導者の選定 地域クラブ活動に関する方針策定 地域クラブ活動事業立ち上げ 令和5年度地域クラブ選定、承認 	<ul style="list-style-type: none"> 地域クラブの運営 運動部活動の地域移行に関する検討委員会 意識調査の実施 生徒、保護者への周知 指導者の選定 令和6年度地域クラブ選定、承認 	<ul style="list-style-type: none"> 地域クラブの運営 部活動の地域移行に関する検討委員会 意識調査の実施 生徒、保護者への周知 令和7年度地域クラブ選定、承認 	<ul style="list-style-type: none"> 地域クラブの運営 部活動の地域移行に関する検討委員会 意識調査の実施 生徒、保護者への周知 令和8年度地域クラブ選定、承認 	<ul style="list-style-type: none"> 地域クラブの運営 	

※休日の地域移行の対象となる部活動は、常時休日に活動している部を対象とする。

※上記以外でも、受入体制が整った地域クラブがあれば、随時移行を行う。

※平日の地域移行は令和8年度以降に検討を開始する。